

鈴木 敦詞

藤田医科大学医学部 内分泌・代謝内科学講座 教授,
APCO メンバー

鈴木敦詞博士は、藤田医科大学医学部内分泌・代謝内科学講座教授で
[Asia Pacific Consortium on Osteoporosis \(APCO\)](#)のメンバーです。

1988年に名古屋大学医学部を卒業後、日本国内の病院で研修を行い、日本内科学会総合内科専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医、日本糖尿病学会糖尿病専門医を取得しています。1996年に名古屋大学大学院医学系研究科で医学博士の学位を取得し、1996年から1998年にはスイス連邦ジュネーブ州立大学病院骨疾患研究部門にポスドク研究員として留学しました。1998年に帰国後、研究者・医師・大学教員として勤務し、2015年からは現職を務めています。



鈴木博士は、国際骨粗鬆症財団（International Osteoporosis Foundation）の科学諮問委員（Committee of Scientific Advisors）ならびにアジア太平洋地域の地域諮問評議員（Regional Advisory Council）に選出されています。国内では、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会などの評議員を務め、また骨粗鬆症財団の評議員でもあります。

鈴木博士の研究ならびに臨床の専門分野は骨粗鬆症を含む骨ミネラル代謝疾患で、基礎研究・臨床研究の両者に取り組んでいます。また、日本骨粗鬆症学会の骨粗鬆症リエゾンサービス事業の主要メンバーの一人でもあります。研究業績としては130報を超える英文科学論文を国際的な学術雑誌に発表しており、内分泌代謝、糖尿病、骨粗鬆症、骨代謝の各分野における国内外の学会で講演・発表を続けています。

鈴木博士は、2016年に米国内科学会より Volunteerism and Community Service Award を授与されており、国内では2010年愛知県医師会難病研究者表彰、2016年日本骨代謝学会学術賞、2018年日本骨粗鬆症学会学術振興賞ならびに IBM Faculty Award、2019年日本人工知能学会研究会優秀賞を授与されています。

“APCO Framework プロジェクトは、非常に刺激的かつ興味深いもので、臨床家と研究者との両者にとって有用であることは間違いありません。このフレームワークを作る過程で、私自身も各国の医療保険体制や社会経済的背景の多様性について学びました。”と鈴木博士は語った。

“このフレームワークによって、われわれは骨粗鬆症治療に関する自身の戦略を一度立ち止まって考えることが出来ます。アジア太平洋地域各国の今後のガイドラインは、このフレームワークによってさらに良いものとなり、また相互のガイドラインを比較検討することがより一層容易になるでしょう。”

ends#

MEDIA ENQUIRIES: Kirsten Bruce & Mel Kheradi

VIVA! Communications

T +61 2 9968 3741 | + 61 2 9968 1604

M + 61 401 717 566 | + 61 421 551 257

E kirstenbruce@vivacommunications.com.au

mel@vivacommunications.com.au